

亀城福祉だより

第47号
平成22年9月発行
亀城学区社会福祉協議会



介護予防講座で「しゃんしゃん体操」を楽しむみなさん 7月5日開催

理想の組織体を模索して

八月の下旬、平成二十三年より施行される第二期酒田市地域福祉計画策定に伴う地区懇談会が開催されました。高齢化の時代を迎え平成二十五年度には、酒田市の高齢化率が三十%を迎えようとしている現状から鑑み、地域福祉が又一步前進する事は地区社協活動に携わる一員としては、大いに期待するところであります。

その中で、常々自問自答している事ですが、益々高齢化が進行し、最重要視される地域福祉活動を推進するための執行体制が現状のままでは良いのかと言う事です。自治会長が要職である三役を担っているのが亀城学区社協の執行体制の実態ですが、事業自体幅広くまた奥が深い事業体系から事業を推進するには、専門的な知識が必要不可欠ですので、速やかに事業を推進するには、新参の自治会長では無理難題が多過ぎるのです。

三役は、幅広い人材で構成すべきと考えており、せめて、執行部の要である事務局長の人選には行政と一体となって取り組むべき今日の課題と思います。



亀城学区社会福祉協議会
会長 本間 宏

地域交流いきいきサロン
おらだのあづばり
立町自治会 豊寿クラブ
会長 山田 富士雄

立町豊寿クラブは、立町自治会の老人クラブです。昭和四十一年に規約が制定されていますが、それ以前のことは不明です。最近の活動は、

一、誕生会は春秋二回に、常時三五名程度が参加。総会の次に参加者が多いです。会合を利用して教養講座を開き、昼食を皆さんの誕生会。交通安全、高齢者医療、認知症など、市の出前講座を主に利用させて頂いています。

二、バス旅行も春秋二回が定番で、臨時の旅行もありました。毎回十五名程度の参加で、送迎バスのある温泉地を選ぶことになっています。昨春秋には戸沢村草薙温泉を目的地としました。神代杉の生育している山の中腹まで「マイクロバス」が登り「幻想の森」と名付けられた森林を散策し、落ち着いた気分を堪能しています。



楽しい旅行のひとつ

ました。下山して、最上川舟下りを体験し有意義な一日を過ごしました。

三、茶話会の開催。近年始めた行事です。毎月十五日に集まり、会の打ち合わせなども話題とし、日頃話し合う機会の少ない会員がお茶とお菓子で話に花が咲いています。

集会所の障子の張り替えボランティアの話も出て、近日実行することに決まっています。

冬期間の運動不足解消から始めた公式輪投げも行われ、勝ちたい気持ちと不運に笑い合う。気軽に参加して、楽しく元気に行動できる集会を目指しています。

支え合う心
「ふれあい給食サービス」
代表 守屋 啓子

亀城学区社会福祉協議会では、年七回、高齢者の方に配食サービスを行っております。

昭和六十年から地域の皆さんと一緒に配食サービスボランティアを立ち上げ関わってきまきた活動です。この事業が継続して、自分もこの配食サービスを受けたいと思っています。地域にこうした事業を浸透させて、若い世代を仲間呼び入れたいですね。



献立から考えて作ります。料理の勉強にもなりますよ、と語る守屋さん。

お元気ですか。もう寒くなってきましたね。私は学校でじぎゅう走をしています。ちよつと走るのがきついです。頑張っています。お弁当も食べておつと元気にいして下さい。

4年生

配られる給食には、小学生のみなさんからの手紙が添えられます。



編集後記

お詫び
第46号(平成22年3月)掲載の「おらだのあづばり」文中「三十世代交流事業」は「三世代交流事業」の誤りでした。お詫び申し上げます。

あらゆる情報が手に入る時代に、百歳以上の高齢者の所在が不明だったり、亡くなったことを偽っていたりという事例が次々と表面化し、驚くと同時に何とも言えない暗澹たる思いがします。

心豊かに生きるとは何なのでしょう。モノが溢れる現代社会の中で、私たちは何を、何を失っているのでしょうか。たとえどんな時代でも、親が子思い、子が親を思う心は何より深いもの変わらないものだと思います。

編集委員

天野 紘典	田澤 薫
阿部 宣子	原 榮
板垣 倫言	本間 宏
江口 暢子	守屋 啓子
大江 美千	矢野 信子
大場 直人	(五十音順)

第一回会員研修会

「介護と福祉サービス」について

酒田市健康福祉部長 阿部 直善氏

去る七月三日、酒田市健康福祉部長 阿部直善氏をお招きし、酒田市の高齢化の現状や福祉問題が抱える課題などについての会員研修を行いました。



酒田市健康福祉部長 阿部 直善氏

酒田市の高齢化の状況

酒田市の高齢化率は、平成22年3月末で65歳以上が28・3%です。平成26、27年頃には、ほぼ3人に1人が65歳以上になると思われます。

また、現在60歳の団塊世代が高齢者になる「2025年問題」が介護保険の中で取り上げられ、平成30年頃には高齢者が最も多くなる見込みです。

そのために、市では介護予防に力を入れています。しかし、高齢者の絶対数が増加することから、介護を必要とする人も増加していきます。

酒田市の要支援・要介護認定者数の推移

平成24年で、要支援・要介護認定を受ける人は18・5%と見込まれています。しかし、平成22年段階で、18・6%の認定と、当初見込みより少し多くなっているのが現状です。予防サービスの利用により、重度化させない、といった取り組みも行われています。

バランスのとれた介護事業を

酒田市の在宅サービスにかかる経費は全国平均に近く、施設にかかる経費が平均を超えています。酒田市は、特別養護老人ホームとか老人保健施設とかの入居施設の整備がかなり早く進んでいます。介護はやればやるほど保険料が上がる仕組みに

なっており、そうした中でどのようにバランスをとって介護事業をやればいいのかが課題となります。

福祉施設の入所は緊急度の高い方を優先しており、待機者は実際のところは150人前後です。日本海総合病院に現在の医療センターの診療科が移り、医療センターは療養病床になりました。北庄内の医療・介護・福祉の連携が格段に上がることが期待されます。



介護の状態と介護予防サービスの例（下段参照）

元気な高齢者は、学区ごとに介護予防講座を受けることができます。また、自治会の自主事業として、地域高齢者支えあい事業などの取り組みも行われています。

地域福祉の支援のために

中山間地域、農村地、都会の中でも高齢化と不況が同時進行して「買い物弱者」が出ています。また障がい者の成年後見の問題などこれから支援していく

今年度の事業計画を紹介します。

平成二十二年度亀城学区事業計画

事業区分

・基盤強化事業

- 一、合同会議の開催
- ・合同会議・研修会を年間三回開催します。

- 二、自治会長・民生児童委員交流会

- ・年間二回実施予定です。

- 三、学区代表者会

- ・年間四回開催します。

・生きがいふれあい事業

- 一、見守り支援事業

- ・「独居老人の孤独死」防止事業であり、ネットワーク対象者の安否を確認する事業です。

- 二、ふれあい給食事業

- ・心身虚弱な独居および夫婦世帯に対し給食を提供する事業で年間七回実施します。

- 三、地域あんしん事業

- ・地域内での簡単な相談に対応することを目的とした事業で、相談内容に応じ適切な機関への橋渡しを目的としております。自治会単位にて実施します。

四、地域交流「いきいきサロン」事業

- ・地域の高齢者・障がい者および子育て中の親たちが気軽に集まり、仲間づくりをする事業です。自治会単位で実施します。

五、介護予防講座

- ・要介護状態の発生を出来る限り防ぐ（遅らせる）こと、要介護状態にあり、その悪化を出来る限り防ぐ事を目的に十八年度より実施されました。東禅寺コミュニティセンターで年間七回実施します。十月には、野外講座を実施します。

・啓発事業

- 一、会報の発行

- ・年間二回、九月と三月会報（亀城福祉だより）を発刊し学区社協の諸活動を広く広報します。



・福祉教育事業

- 一、福祉ボランティアの育成
- ・ボランティア新人育成に努めます
- 二、民生児童委員・福祉協力員の研修
- ・資質向上のための研修会です

他人を思いやる心が育っています

酒田市立亀城小学校

本校の六年生は、総合的な学習として、毎年学級毎に亀ヶ崎保育園を訪問し、園児達と交流活動を行っています。六年生は、お兄ちゃんお姉ちゃんとして若い園児達と一緒に遊ぶ中で、大切な事を沢山学んでいます。

自分が考えた遊びの説明をするとき、どんな言葉遣いしたら幼い園児達から分かってもらえるかなど、他の人の立場を考へて行動することの大切さを学び、園児達の楽しそうに遊ぶ姿を見て、充実感を持つなど、他の人を思いやる心が育ってきています。



砂場で遊ぶ園児と小学六年生のお兄ちゃん・お姉ちゃん

体制を検討しています。地域の中で福祉を支えていくことがますます重要になってきます。

介護の状態と利用できる介護予防サービスの例

〈例③〉 要介護 1～5	〈例②〉 要支援 1～2	〈例①〉 元気な高齢者
☆居宅サービス ・訪問介護、訪問看護 ・通所介護、短期入所 など ☆地域密着型サービス ・小規模多機能型居宅介護 ・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）など ・住宅改修、福祉用具貸与・購入 ☆施設（特養ホーム、老健等）入所	☆介護予防サービス ・通所介護 ・通所リハビリ ・訪問介護 など ☆地域密着型介護予防サービス ・小規模多機能型居宅介護 ・認知症対応型共同生活介護（グループホーム：要支援1を除く） ☆住宅改修、福祉用具貸与・購入など	☆介護予防講座（学区ごと） ☆地域高齢者支えあい事業（自治会の自主事業）
介護の必要ないが身体が弱い方 要介護認定非該当		
☆はつらつ介護予防事業（デイサービスセンターなどで） ☆食の自立支援事業（配食サービス）		



亀城小学校で、みんな元気に「小中合同挨拶運動」

生徒が目指す「やる気あふれる明るい三中」

酒田市立第三中学校

生徒会では、「増やそう！やる木 思いやりの花から笑顔の実を結ばせて」というスローガンを掲げ、日常運動に取り組みでいますが、あいさつを交わし合う明るい学区づくりを目指し、中学生が母校に向向いて小学生と一緒に元気にあいさつの声をかける小中合同あいさつ運動にも取り組んでいます。

活動を通して、今よりもっと「思いやりの心」あふれる三中となるよう願っております。この取り組みは、二学期にも行う予定です。